

第387号

2014年

3月14日

どついたニュース

全損保日勤外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日勤ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

支部臨時大会開催

第136回支部定期大会が、3月8日（土）、東京の中央大学駿河台記念館で開催されました。大会では、全損保第93回中央委員会議案と2014年度春闘に関する件について、執行部より提起があり、春闘要求案は全会一致で承認されました。（春闘要求は別紙）

大会では冒頭に、川田委員長より深まる損保再編第二幕の現状や大きく変化しつつある社内情勢の分析を基に、より強固な組織にしていくための視点として、「全損保日勤外勤支部組合員として今後も活動していくことができるのか」「和解内容を守りつつ、制度が変わったことを理解し、まごころ社を存続させ、最後まで仕事を続けていけるのか」「一人ひとりが組織運営をしている思いで組合に参加し、共に協力し合い、いつでも運動の先頭に立つことができるのか」という問いかけが組合員にされ、時代の変革に対し全組合員が情報を共有し、組織に結集して乗り切る体制を作り上げることがより重要であることがあらためて話されました。

議案第1号では、損保経営が再編合理化情勢に悪乗りした労働実態の改悪や具体的な組織攻撃について報告され、「全組合員がしっかりと情勢を見極めたうえで要求を作り上げ、結集してたたかうこと」の必要性が提起されました。また議案第2号では、先般行われた職場オルグにおいて確認された各職場の現状や組合員一人ひとりの意見が発表されるとともに、春闘要求案では、働きに報いる待遇の改善を求めていくことを基本に据え、「賃金改定要求では和解内容を遵守させる」「役割テーブル表全体を3%引き上げることを求める」ことなどが提起されました。

質疑討論では、全損保他支部にかけられたさまざまな攻撃の実態について、「他人事ではない」「私たちのたたかいが生かせないか」など数多くの意見が出され、過去私たちが経験した実態やその時の思いなどを仲間にはっきりと伝えていくための運動を進めていくべきとの意見が数多く出され、また春闘要求案に関しては、「和解内容を守らせ、賃金の引き上げや労働条件の改善に向けたたたかうべき」「業績賞与算出スキームについては、働くもののがんばりが反映される仕組みとするよう求める」などの発言がありました。

その後の質疑や旺盛な論議を経て、すべての議案は全会一致で可決・承認され、最後に竹田副委員長の団結ガンバロウで閉会しました。

2014年度 春闘要求について

要求内容

1、和解協定に関する件

- ・昇級を始め、和解協定通りの運用とすること。

2、2014年度賃金支給の件

(1) 従業員の要求

- ・役割給テーブルを一律3%増額し、適用すること。

(2) シニア社員の要求

- ・シニア社員の賃金については、現行の賃金を適用し、和解協定通りの運用とすること。

3、2014年度臨時給与支給の件

- (1) 2014年度の6月および12月臨時給与については、和解協定通りの運用とすること。
- (2) 職種変更者の2014年度の6月および12月臨時給与については、昨年度支給実績以上とすること。
- (3) 上記(1)(2)共に年初協定すること。

4、その他要求

- (1) 職種変更者のシニア社員制度の適用において、主任調査役に区分すること。
- (2) 業績賞与決定スキームは、従業員の働きが反映される仕組みとすること。
- (3) シニア社員について、特別連続休暇を新設すること。

以 上

この組織に結集し、自分たちで将来を切り拓いていく決議

秋のたたかいでとりくんだ生活と労働条件に関する春闘アンケートでは、会社、賃金、雇用への「将来不安」や、押しつけられる矛盾とその被害への不満が損保に働くものすべての共通の問題であることが明らかになった。たたかう2014年春闘は、全損保春闘アピールにも記されている通り、一人ひとりの思いを大切に、すべての組合員が労働組合に結集し、私たちの展望をきりひらくためにたたかう春闘であり、政治、経済情勢からも労働組合としての役割発揮が求められる春闘でもある。

深まる再編「合理化」情勢第二幕のもと、損保業界も他産業同様に、株価上昇の影響や、海外事業での収益確保により、当期利益を急激に回復させてはいるが、国内市場の縮小と顧客囲い込み競争の激化、損害率の高止まり、自然災害も増加傾向にあることから収益の確保が難しい状況が続いている。加えて不安定な資産運用環境や、消費税増税の影響という課題も抱え、先行きはいっそう不透明になっている。

たたかいの原点に立ち返り、組織に結集するためにおこなった支部オルグでは、「なぜ、私たちはたたかいをすすめてきたのか」を始め、制度廃止とのたたかいと経過について、また和解とたたかいの到達点について全員で確認した。また職場訪問によって現在の立場、環境の情報を共有するとともに、業界情勢と会社施策についての情報交換もおこない、組合活動自体や今後の運動についても、忌憚ない意見交換をした。さらに動きやすい体制にできるかについても考え、状況・情勢を理解・認識したうえで、あらためて全損保日動外勤支部に結集して、たたかう構えをつくることの重要性が確認できた。

今臨時大会で確立された春闘方針のもと、2014年春闘を全員でたたかい、一人ひとりの思いを大切に、すべての組合員が闘争で培った強固な団結で、力強くたたかっていくことで、私たちの将来が切り拓いていけると確信する。

2014年3月8日
全損保日動火災外勤支部
第136回支部臨時大会